柿生文化

平成２３年５月１８日
川崎市立柿生中学校内
柿生郷土史料館　情報・研究誌
第３６号

横浜市
鶴見神社

都会にも残っていた「田遊び」神事

4月
29日

今日に伝わる
古い伝統をもつ祭

田遊びは、稲作を中心とした春の耕作始めといういう意味をもった「祭」です。

古くは、「田楽（でんがく）」があり、風流の楽曲にあわせて舞うという芸術的なものに発展しましたが、「田遊び」はもっと土俗的なもので、全国にも多くの例が残されています。

（神事の道具改めが神殿前で行なわれる）

今では、残るものも少なく珍しいものになりましたが、横浜市の鶴見神社（古くは杉山神社といわれた）に残る「田祭り」は「田遊び」と同じもので、毎年正月１６日に行なわれていましたが、現在では、毎年４月の２９日に行なわれています。

鶴見神社の「田祭り」は『新編武蔵国風土記稿』の中にも『昔より毎年正月１６日に百姓等がうたいを踊る田祭りというものありことに古風なるものにて関東の守護三島大明神といえることあり、これらにても北条の頃のものたること知るべし』とあり、かなり古い昔より伝承されたものでした。しかし、明治初年、新政府より土俗的、下品等の理由で禁止されてしまったようです。その背景には、神社の位置が東海道添いで外国人に誤解されてはいけないということがあったようです。やがて大切な郷土の文化を再興させようということで１１５年後の昭和６２年に復活しました。

祭は、４月２９日、午後５時より始まり、**①拝殿で杉山祭**が行なわれ、**②神事の道具改め**が拝殿の前で行なわれ神官よりお祓いを受けます。**③蟇目（ひきめ）の儀**が行なわれ鬼門（艮＝〝うしとら〟＝東北の方向）と裏鬼門（坤＝ひつじさる＝南西の方向）に向かって矢を放つ悪魔払いの儀式が行なわれます。**④神壽歌（かむほぎうた）**は一年間の稲作農事である「鍬入れ」「苗代（なわしろ＝苗を作る田）の田打ち」「代掻き（しろかき＝田植え前に田に水を入れ鍬などで田の面を平らにする）」「草敷き」「種蒔き（たねまき＝種もみをまく）」「鳥追い（種もみを鳥に取られないよう追い払う）」「田打ち（耕作しやすくするため田を打ち返す）」「田ならし（田を平らにする）」「苗見」「苗取り（田植え前に生育した苗を取る）」「田植え（苗を植えかえる）」「鳥追い」「稲刈り」「豊年祝い」などを模擬的に踊りに振り付けて歌い、踊る神事です。

（早乙女による〝田植え〟の神事）

これらの舞も、歌も、言葉もすべて何百年も前のもので歌の旋律も古式調で、言葉もすべて「候（そうろう＝〝～でございます〟の意）調」でした。

柿生・岡上でも昔はこのような神事があったと考えられます。祖先の生活の姿が生き生きと蘇ってくる大変貴重な伝統行事を真近かで見ることができました。

トイレの考古学 1

古代のトイレの姿が分かってきた

８世紀頃のトイレは？

―― 奈良時代にもあった水洗トイレ ――

現代では一般的に〝用〟を足すところを、トイレや便所という言葉を使っていますが、昔は雪隠(せっちん)・厠(かわや)などと呼ばれていました。

特に「厠」という語は古くは「古事記」にも出てきており、かなり古い用語のように思えます。元々は川屋(かわや)からきたものと思われます。

古代のトイレ（便所）はいったいどんな姿であったのか、つい最近までその実態がよく分かりませんでした。

１９９０年に福岡県福岡市で「鴻臚館(こうろかん＝7世紀頃から外国使節用の接待のために造られた建物)」跡が発掘され、遺跡の一角から深い穴が３つ発見され穴の底近くから長さ３０センチ前後、幅２～３センチほどの板切れが多数発見されました。これは籌木(ちゅうき)といって、当時使用されていた「糞べら(くそべら)」（現在では用便の後は紙で糞を拭くが、昔はヘラで処理していたと思われる）でした。また同時にウリの種なども大量に発見されトイレである事がわかってきました。

（出土した籌木＝ちゅうき＝糞べら）

そして、１９９２年には、奈良国立文化財研究所が行なった藤原京(ふじわらきょう＝奈良県橿原市を中心とする都で、持統天皇の694年～元明天皇の710年までの平城京ができるまでの16年間に置かれた都)の発掘では大量の籌木と寄生虫卵が発見され、トイレの遺構であることが明らかになりました。

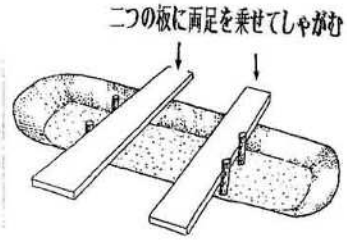
さらに、１９８９年の平城京の発掘では、道路脇の川や側溝から暗渠(あんきょ＝地下に溝を造った水路)で自宅に溝の水を引き、その水路上に板を張ってトイレを造り、排便されたものは、別の暗渠を通り、道路脇の川や側溝に戻るという水洗トイレの跡が発見されたのでした。先程の「厠(かわや＝川屋)」の語源につながる発見ではなかったでしょうか。

（藤原京のトイレ跡）

（平城京の水洗トイレ）

これらのトイレに関する新しい発見によって、トイレそのものの構造が明らかになるばかりでなく、糞便の堆積土から当時の食べ物の様子や寄生虫と生活の実態などが実によく解るようになってきました。

（参考資料＝「月刊文化財」「考古学トイレ考」）



（藤原京跡のトイレ復原図）

（平城京水洗トイレ復原図）

柿生・岡上の昔話5話　「河童の詫（わび）証文」

昔、鶴見川には流れが静かで、深い所がたくさんありました。

村人はそれを四十八瀞（しじゅうはちとろ）と言っていました。そこには河童が住んでいると云ううわさがありました。

その頃のお寺のお坊さんは、お葬式があると大抵馬に乗っていくのでどのお寺にも厩（うまや＝馬小屋）に馬を飼っていました。

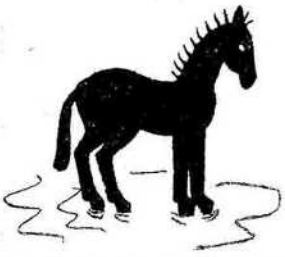
ある日、東光院の住職がお葬式から帰ってきた時、寺男が馬の汗を流してやろうと鶴見川の洗い場につれて行き体をよく流してやりました。馬は鼻を鳴らして大変喜んでいました。やがて寺男は、一休みしようと腰に手をやるとタバコ入れを忘れたことに気付き、ちょっと取ってこようと馬を水浴びさせたまま寺に帰ってタバコを持って川に戻ってみると馬がいなくなって見当りません。ふと下流の方を見ると馬は腹を上にして浮いているではありませんか。寺男はビックリしてすぐに川に入り馬を岸に寄せてみるとすでに死んでいました。

村人もたくさん寄ってきて馬を岸に引き上げてみると馬の尻がポカンと空いてるではありませんか。村人はみんな『これは河童に尻子玉を抜かれたんだ』『河童の仕業だ』と口々に話していました。

近くの常安寺の和尚（おしょう）は大変な力持ちでした。最近、鶴見川に住んでいる河童は数が増え、いろんな悪さをするようになったからもしやと思ってその場所にいってみました。そおーっと草を分けて川の瀬をのぞいてみると案の定、一匹の河童が馬の綱を取って馬を川の淵へ引っ張り込もうとしていました。そして、大勢の河童が周りにたくさんいて体の大きな河童がしきりに指図をしていました。

和尚は修業をたくさん積んだ坊さんでしたので普通の人では見えない河童の姿がよく見えていました。和尚は、これは大変と素裸になって川に飛び降り、うしろで指図をしていた大河童の後首をムンズとつかまえました。大河童は突然吊し上げられたのでびっくりして『ピーヒョロピーヒョロ』と大声を上げました。他の河童は和尚の姿を見てびっくりして逃げ出してしまいました。和尚は大声で『こいつだな！東光院の馬を殺したのは！よぉしひどい目にあわせてくれる！』といってさらに上に吊し上げました。大河童は『ご勘弁ください』と和尚に頼み込みました。和尚は許さず、片手で大河童をつるしたまま寺に戻り、寺の土間に河童を吊しました。これを聞き付けた村人が見物に来て黒山の人だかりとなってしまいました。

それから、和尚は河童になぜ人や馬の「尻子玉」を抜くのか問いただし、大河童の事情も聞いてやり『これから人や馬の尻子玉を抜くではない。そのかわりお前たちも食べるに困るであろうから、麻の実を食べなさい』と言い聞かせました。そして、小僧に硯と墨を持ってこさせ、河童の縄をほどいて土間に座らせ紙と筆を与え、ここにお詫びのしるしに詫び証文を書けといいました。大河童は筆を取って紙に「これからは決して人や馬の尻子玉を抜きません、もしも約束を破るようなことがありましたら鶴見川の四十八瀞（しじゅうはちとろ）から追い出されても苦情は申しません」と書いて手に墨を付けて手形を押しました。そして、和尚に何度も何度も頭を下げ、しょぼしょぼと帰っていったそうです。和尚はその証文を寺の本堂に張っておいたそうです。それ以後、鶴見川で、河童によって人や馬が水死することはなくなったそうです。



（参考資料「川崎物語集」）

柿生郷土史料館の６・７月の催物

第２回特別企画展

■テーマ　「佐藤英行 酉伯が描く 絵で語る故郷の百年展」

■期　日　６月　４日（土）・１１日（土）・１８日（土）・２５日（土）

第３回特別企画展

■テーマ　「瓦版と新聞で見る 江戸.東京の大地震」

■期　日　７月（日曜日）・８月（土曜日）・９月（日曜日）

第５回ガイドセミナー

□テーマ　「佐藤英行 酉伯の 絵を見ながら語る吾が故郷」

□期　日　６月１８日（土）午後２時００分より

□内　容　特別企画展展示の佐藤酉伯の１０枚の絵画をもとに郷土 柿生・岡上の思い出の姿をパネルディスカッション形式で語り合う。

第６回ガイドセミナー

□テーマ　緊急特別企画「大震災のメカニズムと防災」

□講　師　川崎市役所危機管理室職員

□期　日　７月１０日（日）午後２時より

□内　容　大震災のメカニズムを解明し、地震に対する心構えと具体的対応について解説します。

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館：午前１０時
閉館：午後　３時

開館日

ガイドツアー	６月　４日(土)	ガイドセミナ	７月10日(日)
	６月１１日(土)		７月17日(日)
ガイドセミナ	６月１８日(土)	カルチャーセミナ	７月24日(日)
	６月２５日(土)		７月31日(日)

＝７／３日は休館＝
８月の開館 予定は「柿生文化」37号(6月18日発行予定)でお知らせします

カルチャーセミナー案内

第２８回　柿生カルチャーセミナー

テーマ　「多摩川流域地名の謎」

講　師　鈴木　茂子　氏（日本地名研究所）

日　時　５月２９日（日）午後２時～

会　場　柿生郷土史料館（柿生中学校内）

内　容　多摩川をはさんで東京と川崎で同一の地名があります。この謎を解きあかします。稲見川文化研究のヒントにも…

カルチャーセミナー案内

第２７回　柿生カルチャーセミナー

※（3/11の大地震によって延期されていた講座です）

テーマ「発見された相模川橋脚からわかる歴史的事実」

講　師　大村　浩司　氏（相模原市教育委員会）

日　時　７月２４日（日）午後２時～

会　場　柿生郷土史料館（柿生中学校内）

内　容　郷土の武将、菊毛三郎が亡き愛妻のために建てた相模川橋脚。鎌倉時代の建築技術や文化財の保護について解説